

ANALISIS VERBA *TSUKU* SEBAGAI POLISEMI DALAM BAHASA JEPANG

Kholid Damanhuri
43131.52015.0072

STBA JIA
2019

ABSTRAKSI

Polisemi adalah kata yang memiliki beberapa makna. Salah satunya yaitu verba *tsuku*. Verba *tsuku* memiliki banyak makna sehingga sering menimbulkan kesalahan, seperti kesalahan dalam menerjemahkan kalimat bahasa Jepang. Penelitian ini dilakukan untuk mendeskripsikan makna, klasifikasi makna, serta hubungan verba *tsuku* dengan majas yang mempengaruhi perluasan maknanya. Metode penelitian ini menggunakan pendekatan kualitatif deskriptif. Pengumpulan data menggunakan teknik catat. Data yang dijarah berupa *jitsurei* yang mengandung verba *tsuku* yang diambil dari buku, novel dan koran digital *Asahi Shinbun*. Untuk menganalisis data, yang pertama adalah mencari makna verba *tsuku*, kemudian mengklasifikasikan data berdasarkan makna, dan terakhir mendeskripsikan hubungan antara makna verba *tsuku* dengan majas yang mempengaruhi perluasan makna. Berdasarkan hasil penelitian yang telah dilakukan, ditemukan 16 makna verba *tsuku* pada *jitsurei* yaitu: *melekat, menempati tempat, tumbuh, muncul, beruntung, tambahan yang berlebih, tertinggal, memiliki, masuk ke dalam indra perasa, mengikuti, menyentuh, tumbuh akal, sadar, dipertanyakan, kebulatan tekad, dan menyala*. Sedangkan klasifikasi makna yang ditemukan yaitu: *dua hal berbeda yang menjadi satu, membuat dua hal tidak terpisahkan, hal yang mengikuti setelahnya, menimbulkan keadaan baru, timbul gejala, muncul anggapan, terjadi pertama kali, muncul hasil, kontak, dan menempati*. Perluasan makna yang terjadi pada verba *tsuku* karena adanya pengaruh dari majas metafora dan metonimi.

Kata kunci: Polisemi, Verba, *Tsuku*

日本語における多義語として動詞「付く」の分析

Kholid Damanhuri
43131.52015.0072

STBA JIA
2019

要旨

多義語は複数の意味を持つ単語である。そのうちの一つは動詞の「付く」である。動詞「付く」には多くの意味があるので、使用の誤りを引き起こすことがよくある。例えば、日本語の文章を翻訳する時に、その誤りがよく起こる。本研究は、動詞「付く」の意味と意味分類、およびそれらの動詞「付く」の意味の拡大に影響を与える比喩との関係を説明するために行われる。本研究では質的アプローチを使用する。データを集めるため、メモを取る方法を使う。そのデータは、日本語の教科書や日本語の小説、朝日新聞デジタルにあった動詞「付く」を含む事例から取った。データを分析するために、事例にある「付く」の意味を見つけ、動詞「付く」の意味に基づいて分析されたデータを分類する。最後に、動詞「付く」の意味と意味の拡大に影響を与える比喩との関係について述べる。研究の結論は、動詞「付く」は16の意味が存在する事を発見した。それは、くっつく「基本義」、座席に、生ずる、現れる、幸運、付加する、残る、備わる、感覚器官に入り込む、従う、接触する、知恵が付く、気が付く、疑問が付く、決心が付く、火が付く、である。意味分類は、次のとおりである：・別々のものが一緒になる・二つの物が離れない状態になる・後から加わる・新しい状態が生ずる・現像が現れる・情意や判断が現れる・初めて起こる・結果が現れる・接触する・座席に。意味の拡張は、隠喩および換喩の影響により、動詞「付く」に発生する。

キーワード：多義語、動詞、付く

第一章

はじめに

A. 背景

多義語とは、一つの単語にいくつもの意味を持つことである。

日本語には多義語がたくさんある。例えば、動詞「付く」である。動詞「付く」は意味がたくさんある。動詞「付く」は、文脈によって意味が違ふ。動詞「付く」を翻訳したら、一つの意味だけでなく、他の意味もある。よって、日本語を学習する学生は、動詞「付く」の意味が分からなければ、動詞「付く」を適切に使うことも分からなくなる。そのため、筆者は「日本語における多義語として動詞『付く』」を研究したいと思う。

B. 問題の定式化

背景による、問題は以下のように定式化される：

1. 多義語として動詞「付く」の意味は何であるか。
2. 多義語として動詞「付く」の分類はどのようなものであるか。
3. 多義語として動詞「付く」の意味と影響を与える比喩の関係はどのようなものであるか。

C. 研究の目的

1. 多義語として動詞「付く」の意味を理解する。
2. 多義語として動詞「付く」の分類を理解する。

3. 多義語として動詞「付く」の意味と影響与える比喩の関係を理解する。

第二章

理論的な基礎

A. 意味論

府川 (2005,1) によると、「意味論は言語形式の表す意味を語・句・文・談話それぞれのレベルにわたって研究する言語学の分野」である。

B. 意味の関係

Chaer (2015, 297-310) によると、意味論では意味の関係がある。つまり、ある言語単位と別の言語単位との間に存在する意味関係である。

C. 多義語

秋元 (2003, 111) によると、「多義語は1つの語が2つ以上の意味を持っていることをいう。くにひろ (Sutedi, 2014,161) によると、「多義語とは単語には多くの意味がある。および、その意味の関係を説明できる」である。

D. 品詞

Sudjianto (2014, 147-148) によると、品詞とは単語の種類である。分類したものはグループ、分類、カテゴリーおよび区分を意味する。

E. 動詞

Sudjianto (2014, 149) によると、「動詞とは日本語の品詞の一つである。形容詞と形容動詞のように、自立語で用言を含む、活用する用言、人

や物の動作、状態、存在を表わす」である。鈴木 (1990, 444-445) によると、動詞の文法的な意味による分類で、次の三つが特に重要である。

ア・自動詞と他動詞：対象を表す「を」をとるものが他動詞、とらないものが自動詞である。

イ・継続動詞と瞬間動詞：「～ている」の形で動作の進行を表すものが継続動詞、結果の状態を表すものが瞬間動詞である。

ウ・意志動詞と無意志動詞：人間の意志による動作を表すものが意志動詞、人間の意志によってコントロールできない動きを表すものが無意志動詞である。

F. 意味の種類

ある単語は基本義と転義がある。Sutedi (2003: 106-109) によると、「基本義とは単語の原義である。転義とは比喩に影響される基本義の広げる意味のこと」である。

G. 多義語と比喩の関係

秋元 (2003, 125) によると、「比喩とは、物事を表現するときにはほかの物事に例えて表現すること」である。府川 (2004, 1) によると、「比喩とはあるものごとを表現するのに、似たところのある他のものごとを借りて述べること、また、その表現されたもの。物事の説明に、これと類似したものを借りて表現すること」である。

Sutedi (2009: 85-94) によると、「意味の拡張は三つの比喩に影響される。それは、隠喩、換喩、堤喩である。隠喩とは、あることを類似のある

他のことで譬えられる比喩である。換喩とは、あるものを言い表す場合に、そのものの属性や、それに関連の深い物を持って言い換えて、その本体の物を表す比喩である。提喩とは、全体や類を表す言葉、で部分や特殊なものを表したり、逆に部分や特殊なものを表す言葉、で全体や類さしたりする比喩のこと」である。

H. 「付く」の意味

この研究では、使用した参考書はいくつかの日本語辞書の組み合わせである。そのうちの一つはいずる（2018, 1942-1942）による最新の参考書である。「付く」の意味分類は十つある。

1. 二つの物が離れない状態になる。
2. 他のもののあとに従いつづく。
3. あるものが他のところまで及びいたる。
4. その身にまつわる。
5. 感覚や力などが動き出す。
6. 定まる。決まる。
7. ある位置に身をおく。
8. （他の語に付けて用いる。多くヅクとなる）その様子になる。なりかかる。
9. （「ついて」「ついて」の形で）
10. 助詞の「に」に接続して...により。

第三章

研究の方法

A. 研究のアプローチ

本研究では「付く」の意味、意味分類、多義語と比喻関係を分析するため、クアリタティブアプローチを使用している。

B. 対象とデータソース

対象は動詞「付く」を使用する文である。その文はデータソースから取られた。データソースは「『日本語総まとめN2一語彙』、『日本語総まとめN2一読解』という日本語の教科書、『日本昔話一かぐや姫』という日本語一英語の物語の本、朝日新聞デジタルというオンライン新聞を使用している。

C. データ収集方法

データ収集方法は、データカードにデータを書く方法である。データは動詞「付く」を含める分である。

第四章

データ分析

データが集まった後、次の順序のような方法をする。

A. 動詞「付く」の意味を分析する。

B. 動詞「付く」の意味を分類する。

C. 動詞「付く」の意味と比喻の関係を分析する。

第五章

結論

研究の結果によると、動詞「付く」の意味は16つを発見した。発見された動詞「付く」の意味は次の通りである；くっ付く「基本義」、座席に、生ずる、現れる、幸運、付加する、残る、備わる、感覚器官に入り込む、従う、接触する、知恵が付く、気が付く、疑問が付く、決心が付く、火が付く。そうしたら、意味分類は次の通りである；別々のものが一緒になる、二つの物が離れない状態になる、後から加わる、新しい状態が生ずる、現像が現れる、情意・判断が現れる、初めて起こる、結果が現れる、接触する、座席に。動詞「付く」の拡張は換喩と隠喩に影響される。結果は次の通りである。

番号	意味分類	換喩	データ番号	隠喩	データ番号
1	別々のものが一緒になる	-	-	-	-
2	二つの物が離れない状態になる	√	(30)	-	-
3	後から加わる	√	(1), (3), (4), (6), (7), (11), (12), (14), (15), (17), (18), (21), (24), (25), (26), (29), (33)	√	(5), (28)
4	新しい状態が生ずる	-	-	√	(8)
5	現像が現れる	√	(9), (20), (22), (23), (32)	-	-
6	情意・判断が現れる	-	-	√	(13), (27)
7	初めて起こる	-	-	√	(19), (35)
8	結果が現れる	√	(2)	-	-
9	接触する	√	(31)	-	-
10	座席に	√	(19), (34)	-	-